

## 羽田発着枠配分基準検討小委員会（第1回）議事概要

1. 日 時：令和6年3月14日（木）13：30～15：00

2. 場 所：中央合同庁舎3号館 国土交通省11階特別会議室

3. 出席者（50音順、敬称略）

〔委員長〕竹内健蔵

〔委 員〕加藤一誠、花岡伸也、樋口容子、矢ヶ崎紀子

〔オブザーバー〕ANA、JAL、SKY、ADO、SNJ、SFJ

〔事務局〕航空局長、航空ネットワーク部長、航空事業課長 他

4. 議事

（1）羽田空港発着枠の現状

（2）その他

5. 議事経過

事務局より資料に基づいて説明を行った後、以下3点について委員の意見交換がなされた。

①新型コロナウイルス感染症の影響について

②今後の評価指標について

③航空会社からのヒアリング事項について

【主なご意見】

<新型コロナウイルス感染症の影響について>

- ・コロナ禍の期間は評価の対象から外すべきではないか。
- ・事業環境は依然として厳しく、航空会社には大きなダメージが残っている。もう少し様子を見たい。
- ・2023年からの5年間を評価の対象とするのが、複雑にならず、平等に評価できるのではないか。
- ・5類移行後の現在も感染者数の増減が繰り返されていることを踏まえると、評価の対象となる期間のほとんどがコロナ禍の影響下にあったとみることができる。
- ・2023・24年の「回復期」を評価の対象とするべきかについては、航空会社の考え方も踏まえながら議論したい。
- ・同じような事態が再来し得ることを考えれば、コロナ禍の厳しい状況の中でもどれだけ頑張ったのかを評価することも検討するべき。
- ・コロナ禍における雇用維持の取組みを加味したらどうか。

## <今後の評価指標について>

### (全体)

- ・ これまでも評価指標は変遷してきた。時代に沿った指標を考えるべき。
- ・ 見直しが必要。現在の指標は過去の実績を評価しているものだが、今後どのように枠を上手に使っていくつもりであるかも考慮し、過去と今後の両方を考え合わせることが大事ではないか。
- ・ 持続可能な航空事業運営に向けた考えや取組みをヒアリングしたうえで、客観的に評価でき、評価項目に組み入れ可能な内容があるのか確認するのがよい。
- ・ 競争も大事であるが協業・協調の成果を評価できる指標になるとよい。コードシェア以外の協業もみていきたい。
- ・ 各社が託された枠をしっかりと活用できているかが重要。活用の状況の評価するには政策の方向性との親和性があるかどうかをみるのが大事ではないか。

### (競争の促進)

- ・ これまで運賃低廉化を評価してきたが、もはや地平が変わった。単に値段を下げればよいという話ではなく、コストを適正に転嫁して、適正な運賃は得るべきではないか。
- ・ 1便・3便ルール対象路線を含むすべての路線を、運賃低廉化の評価対象としているが、対象路線を限定するなどの見直しを検討してもよいのではないか。
- ・ 航空業界の持続的発展の観点から、グランドハンドリング業界の処遇や環境について評価する指標は考えられないか。
- ・ 安全・安心で、また乗りたいと思えるサービス・接遇を提供できているのか、その対価としての運賃を設定しているのかが重要。
- ・ 路線によって事業環境の状況に差はあるが、地域航空サービスのアライアンスは更なる拡大が要請される可能性があるのではないか。グランドハンドリングなどの人材確保を含めて供給側が制約となることも想定される。

### (多様な輸送網の形成)

- ・ 羽田路線以外の路線を張っていることは、引き続き、評価基準に含めるべき。
- ・ 政策コンテスト枠と1便・3便ルールとの差が大きく、アンバランスな状況にある。1便・3便ルールを政策コンテスト枠に振り替えることを改めて議論すべき。
- ・ 1便・3便ルールは既得権益化していないか。地方の努力を反映させるインセンティブを用意できればよい。
- ・ 年間旅客数が40万人を超えている路線の扱いや、地方枠の考え方について、見直すことも考えられないか。

### (その他)

- ・ 需要開拓に積極的に取り組む会社に枠を任せることが大事。
- ・ インバウンドの高まりを国内需要に取り込むため更なる工夫が求められる可能性がある。
- ・ 環境への配慮や脱炭素の取組みを評価する指標を入れることが考えられないか。
- ・ バリアフリー、環境対策、人手不足などの直接収益に結びつかないような努力を評価することはできないか。
- ・ 国際線も含めた羽田空港全体の発着枠配分のあり方について議論できないか。
- ・ 際内乗継改善枠との関係で、関空乗継ぎで羽田と海外を行き来している旅客がある程度いるこ

とは確認しておくべき。

- ・消費者にとっては、値段に応じて色々なサービスが選べることが大事。

<航空会社からのヒアリング事項について>

- ・評価の対象とする期間について、どう考えるべきか。
- ・インバウンド旅客への対応やプロモーションの取組み状況について、データに基づき紹介してもらえないか。
- ・鉄道との競争状況についてはどうか。
- ・持続可能な航空事業運営に向けた各社の考えや取組みはどうか。
- ・今後重要となるカーボンニュートラルに向けた取組み状況はどうか。
- ・グランドハンドリング分野における協力・支援・連携等の取組み状況はどうか。
- ・従業員満足度の観点から、今後の処遇の方向性をどのように考えているか。
- ・羽田空港の活用に関する国への要望なども聞かせてもらいたい。

<そのほか>

- ・5年前も議論したスロットオークションについては継続的に調査してもらいたい。

以上